

科目名	中国語圏文化論特講	担当者	ゴ 森 呉 川	期間	通年	単位数	4
-----	-----------	-----	------------	----	----	-----	---

【科目概要】

目的	<p>本特講では、日本との比較対照を視野に入れながら、中国語圏のことばの特徴を考え、中国を中心とする中国語圏のことばと文化の関わりを新語・流行語を含む様々な角度から考察・検証し、中国語圏のことばと文化に対する理解や研究を深めることを目的とする。</p> <p>以上の目的を達成することにより、豊かな知識・教養に基づく高い倫理観を涵養するとともに、論理的・批判的思考能力をはじめ、問題発見・解決力、コミュニケーション能力、挑戦力、省察力を身に付けることを目指す。</p>		
到達目標	<p>【一般目標 (GIO)】 中国語のことばと文化に対する理解度や研究レベルが高まるようにする。</p> <p>【行動目標 (SBOs)】 1) 修士論文作成に必要な先行研究の文献を把握し、それぞれの分野の研究の進め方について理解し、遂行できるようになる。 2) 文化的意味を持つ俗語・慣用語・ことわざ、時代とともに変わる新語・流行語について考察し中国のことばと文化に対する理解を深める。</p> <p>【準備学修項目と準備学修時間】 レポート課題の準備から完成までに、以下を目安に最低 45 時間の学修時間を要するものとする。 教材の学修：15 時間 レポート執筆：15 時間 レポート推敲（教員の添削指導を含む）・最終稿の完成：15 時間</p>		
学修方略 (方法)	<p>【アクティブラーニングの有無・学習媒体等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・manaba folio を使ったインタラクティブな添削指導を受ける。 ・manaba folio の掲示板機能を利用して、課題図書に関する疑問点の質疑応答・意見交換を行う。 ・manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、受講者同士で情報交換を行う。 ・manaba folio の全受講者用の掲示板機能を利用して、レポートの推敲課程において、受講者が互いのレポートについてアドバイス行う（ピアレスポンスを行う）。 <p>【学習方略 (LS)】 電子データや図書館を利用して、参考文献を調査し、自らレポートを作成したうえ、担当教員と意見交換・質疑応答・添削によってよりレベルの高いものに仕上げていく。</p>		
スケジュール	<p>1) 前期：基本教材 1 を精読し、参考図書等を参考して〆切日までにレポート課題 1 を提出。</p> <p>2) 後期：基本教材 2 を精読し、参考図書等を参考して〆切日までにレポート課題 2 を提出。</p>		
成績評価	種 別	割合	評価基準
	レポート	80 %	課題レポートの内容（論旨、構成、独創性）を重視する。
	平常評価	20 %	スクーリング授業やゼミの出席も評価の対象になる
履修者への要望	<p>可能な限り中国語で書かれた研究書や文献も合わせて読むことが望ましい。</p>		

【レポート課題】

基本教材 1	
教材の概要	<p>著者名： 上野恵司 教材名： 『ことばの周辺 ― 中国語 72 話（新版）』（白帝社，2007 年） ISBN:978-4-89-174873-9 1,600 円+税</p> <p>本書はことばと文化のエッセーであるが，ことばの周辺に広がる異文化の世界が見えてくる。</p>
参考図書	<p>上野恵司『ことばの文化背景―中国語 51 話』（白帝社，1997 年）ISBN:978-4-89-174323-9 1,600 円+税 朱大可ほか チャイニーズカルチャーレビュー―中国文化総覧 (Vol. 1～Vol. 7) (好文出版，2006 年-2010 年) 各 2,800 円+税 王希傑（加藤阿幸・許山秀樹訳）『これが漢語だ 王希傑言語文化随筆集』（白帝社，2007 年）ISBN:978-4-89-174615-5 2,200 円+税</p>
履修上のポイント	<p>基本教材をもとより，できれば，中国語で書かれた研究書も熟読してほしい。そして，中国語という言葉を通して，中国の文化・社会との関わりを考察し，中国語圏の文化の特徴を理解・把握してほしい。</p>
レポート課題 1	<p>中国語圏の言葉と文化・社会の関係について分析し，論じなさい。</p> <p>留意点：中国語圏の言葉にみる文化的・社会的事象を取り上げ，分析・考察する。</p>
レポート課題 2	<p>日中共通の語彙にみる文化的な相違について考察し，論じなさい。</p> <p>留意点：日中同形異義語や同じ漢字を用いながら，意味や用法の異なる言葉に焦点を当て，その文化的背景や発想の違いに注目してほしい。</p>

基本教材 2	
教材の概要	<p>著者名： 中文礎雄 教材名： 『中国のことばと文化・社会』（時潮社，2006 年） ISBN:978-4-78-880607-8 3,500 円+税</p> <p>中国のことばと中国の文化・社会との関わりを考察する研究書である。新語・流行語，ざれ歌から社会の激変ぶりを知ることができる。</p>
参考図書	<p>宇野和夫・呉川『中日辞典 新語・情報篇』（小学館，2008 年）ISBN:978-4-09-515603-3 3,800 円+税 相原茂『笑う中国人 毒入り中国ジョーク集』（文芸春秋，2008 年）ISBN:978-4-16-660616-0 740 円+税</p>
履修上のポイント	<p>ことばは時代とともに変わるものである。目まぐるしく激動している現代中国においても多くの分野から新語や流行語がどんどん生み出されてくる。常に最新の動向に注目し，できるだけ新しいデータを収集したうえで分析を行ったほうがよい。</p>
レポート課題 1	<p>新語の出現とその文化的・社会的意義について論じなさい。</p> <p>留意点：中国語圏の新語や流行語を分野別に整理しながら，新語形成のプロセスについて考察することが望ましい。</p>
レポート課題 2	<p>中国語圏のことばと文化の，日本との相違点について論じなさい。</p> <p>留意点：色彩語のイメージ，動物のイメージ，食文化に関わる表現，身体に関連する表現，タブーの表現，人名・地名の文化的意味，宗教に関わる表現など，さまざまな内容から一つ絞って，副題をつけて論じたほうがよい。</p>